

## 第三者意見

人類はいま、人口、食糧、エネルギー、地球環境保全等多くの観点から環境に負担を与えない循環型社会の構築が喫緊な課題になっており大きな歴史的転換期を迎え、新しい挑戦が始まっています。このような背景から、CSRレポート2010で地球環境保全、エネルギーの安全保障、経済成長の継続のいわゆる3Eに貢献するという経営理念のもと、誠実な事業活動を進められていることは、社会の要求と方向を一にする心強いものです。

社会から見た企業に対する評価は、今や環境経営が大きな課題になってきており、そのような時代の流れの中で、T H Kの環境経営に対する積極的な姿勢はそのトップメッセージで強く示されています。企業経営において環境課題はリスクと評価される場合もありますが、環境経営へシフトすることは一方においてはチャンスであると認識できます。

「地球環境に貢献できる新製品を積極的に提案していく」とのトップメッセージと、それを具体化して真の意味で環境型経営を推進していくことは、我が国を含め世界中の企業において今まで以上に強く要求されているところであります。環境経営の取り組みの理念と具体的で実効性のある企業経営方針が進むことが望まれます。環境経営の一つであるエネルギー問題の技術的挑戦課題は、エネルギー効率向上、再生可能エネルギーの利用、無公害輸送用燃料の開発、水素や電気等の無公害エネルギーの複合化と先進的分散型エネルギーシステムであり、これらの多くの技術開発と具体的な機器の製造等は結果として、人口、食糧、地球環境といった多くの課題を克服することができ、最終的には環境、エネルギー、経済の3Eを得ることができるようになり、持続可能な発展をもたらす礎となるものと期待されます。これらの個々の技術を広い視野のもとで有機的に統合することのできる新規な統合技術がT H Kから発信されています。

また、環境経営は社会から、または市場から評価してもらわなければなりません。市民レベルでのコミュニケーション、情報提供は非常に重要な役割となってきます。本CSRレポートは「社会との関わり」、「環境との調和」として丁寧に具体的にかつ分かりやすく記述されており、T H Kの環境経営等に対する大きな理想と個々の機器における対応を現実的に図っているという面でも誠実な姿勢が強く感じられます。

ビジネス環境の変化、国際化の拡大、高度情報化の進展、企業の社会的責任の増加等により企業を取り巻く状況が変化し、リスクが多様化・巨大化している現状があります。このような危機管理の必要性が増しているなかで、T H Kはリスクを分析し、危機管理マニュアルの作成、訓練、評価を「リスクマネジメント・情報セキュリティ」の「BCP」、「新型インフルエンザ」、「情報セキュリティ」、「安否確認システム」等にて見ることができます。今後も繰返しの訓練、評価を行うことでリスク管理等の風化を防ぎながら企業の社会的責任である事業継続性を高めることが重要であります。

環境の保全と経済の発展を両立させ、健康で豊かな生活を送るため、地球温暖化の防止、循環型社会の構築および自然との共生などの取り組みが不可欠であるという価値観が世界の指導的な人々から個人の意識に至るまで共有されるようになってきました。

温室効果ガスを削減し、地球環境を保全することは、経済的なメリットを得ることのできる大きな将来への投資であるとの方向性も明確になってきたなかで、今回CSRレポートを拝読させていただくことができ、T H Kの環境問題に真摯に取り組む姿勢に接することができました。

真の技術で世界の人々に新しい風を吹かせ、その結果、T H Kファンが着実に増えていくことを期待しております。

明道大学エネルギー研究センター所長  
東海大学総合科学技術研究所

関 和市(セキ カズイチ)様

1963年東京大学宇宙航空研究所航空力学部、1976年東海大学産業科学研究所、1991年東海大学開発技術研究所、1997年東海大学総合科学技術研究所、2006年台湾明道大学エネルギー研究センター。◇低亜音速空気力学、遷音速空気力学、超音速空気力学および極超音速空気力学に関する研究。環境工学、風車工学、ロケット、飛行体の空気力学に関する研究、走行体、球体、長大橋、構造物等の応用空気力学に関する研究。大気拡散、長大トンネル換気に関する研究。エネルギー変換工学に関する研究。風況特性、大中小風力発電システムに関する研究。人力飛行機に関する研究。◇経済産業省総合資源エネルギー調査会新エネルギー部会委員、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)風力発電技術委員、新エネルギー財団(NEF)新エネルギー産業会議評議員・風力委員、日本電機工業会(JEMA)風力発電標準化総合委員、日本風力エネルギー協会会長、リニューアブルエネルギー有効利用・普及促進機構理事長等歴任。◇教授、工学博士。



## 編集後記

4回目のCSRレポート発行を迎えました。T H K製品が皆様の身近で使用され、どの程度お役にたっているかを検証するために昨年起きた駿河湾地震の事例を取り上げ、免震装置利用者の声と他の珍しい使用例を紹介する特集を組みました。もう一つの特集では、グローバル展開を進める中、T H Kの1海外工場を取り上げて、真摯にものづくりに臨んでいる社員の姿を紹介しました。またステークホルダーの皆様方に信頼されるコーポレートガバナンスやコンプライアンス体制の構築、従業員の能力を伸ばす仕組み、地域社会への貢献、地球温暖化防止や人体に悪影響をおよぼす化学物質の使用禁止への取り組み等を分かりやすくまとめました。2007年の初刊行以来、T H Kの素顔

をお見せするため、社員やT H Kとご関係のある方々の声を積極的に取り入れています。

今後もステークホルダーの皆様方の信頼を得られる取り組みを行い、またその情報開示を行っていく所存です。つきましては、今回のレポートが読者の皆様方にどのように映ったのかご意見を賜りたく存じます。貴重なご意見は今後のCSR活動やレポート作成の参考にさせていただきます。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見・ご感想を同封のアンケート用紙にてお寄せいただければ幸いです。

CSRプロジェクト事務局  
(次回発行予定2011年9月)